

2025（令和 7）年度
第 52 回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会
茨城大会【開催のご案内】

いやどうも！

桜 梅 桃 李

～ ひとりひとりが輝くまちへ ～



茨城大会開催記念
花（桜梅桃李）の絵コンテスト
最優秀賞作品【春日和】
あじさい学園八千代 栗崎 千恵

全 体 会：令和 7 年 7 月 3 日（木）

分 科 会：令和 7 年 7 月 4 日（金）

参 加 者：関東地区知的障害福祉関係職員等
関係機関・団体、教育等の知的障害福祉関係者

申 込 期 間：令和 7 年 4 月 24 日（木）～5 月 23 日（金）

お申し込みは、この申込サイトよりお願いいたします。

<https://gtc2.knt.co.jp/kntfront/convention/CON00010.xhtml?t=T2000559122>



大会参加費：12,000円（1名）

なお、情報交換会は、別途参加費10,000円（1名）となります。

【大会会場】

水戸市民会館（全体会・分科会）、ホテルレイクビュー水戸（分科会・情報交換会）

主 催：関東地区知的障害者福祉協会、一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会

後 援：茨城県・水戸市・公益財団法人日本知的障害者福祉協会（予定）

2025（令和7）年度 第52回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会 茨城大会 開催要項

1 趣 旨

関東地区（1都8県3市）知的障害者福祉協会の施設、事業所の職員が一堂に会し、施設、事業所が直面する諸課題について研究・討議し、これを実践として活かすことにより、知的障害者の福祉の向上に寄与することを目的とします。

2 大会テーマ

いやどうも！

「桜梅桃李」

～ひとりひとりが輝くまちへ～

少子高齢化がますます深刻化していく中で、人材不足にはじまり人権問題など、障害福祉を取り巻く環境も大きく変化しています。また、私たちの役割は施設職員の枠を超えて地域福祉の担い手としても期待されるようになっていきます。

障害者権利条約への取組では、国連の障害者権利委員会から普遍的なイメージとして「施設収容の廃止」という意見（総括所見）が出され、また、令和6年度報酬改定では「地域移行」がキーワードとなり、利用者本人の「意思・希望」を真ん中にして、一人一人が地域でより選択肢のある生活が送れる障害福祉サービスの構築が、ますます求められています。

我々は、利用者本位の支援に向けて、障害があっても生き生きと暮らせる環境（まち）の創造に向けて、日々切磋琢磨し、支援の質を向上させ、選ばれるサービスを提供し、地域の中で無くてはならない事業所になる必要があります。

そこで、「それぞれが美しい花を咲かせるように、他人と自分を比べず個性を磨こう」という意である「春は桜梅桃李の花あり、秋は紅蘭紫菊の花あり・・・」（古今著聞集）を引用し、また、開催地水戸の「偕楽園の梅」にちなみ、「桜梅桃李」を本大会のテーマとし、開催することといたしました。

あわせて、一人一人が自分の花を咲かせることができるような環境（まち）を、どのようにして創っていくかということを、参加者の皆様方に議論して頂きたい、「ひとりひとりが輝くまちへ」をサブテーマといたします。

なお、「いやどうも！」は、挨拶だけでなく、驚きや共感、謙遜や御礼など、様々な場面で日常的に使用される茨城弁です。参加者の皆様方が、自らの言葉で忌憚なく意見交換ができればとの期待を込めておりますので、開催中の掛け声としてご活用ください。

3 主 催

関東地区知的障害者福祉協会／一般社団法人茨城県心身障害者福祉協会

4 後 援

茨城県／水戸市／公益財団法人日本知的障害者福祉協会（予定）

5 期 日

令和7年7月3日（木）13時から

令和7年7月4日（金）12時まで

6 会 場

① 全体会・分科会

「水戸市民会館」（ＪＲ水戸駅北口より路線バスで約5分、徒歩で約20分）

〒310-0026 水戸市泉町1-7-1 TEL 029-303-6226

（注）当会館には駐車場はありませんので、お車をご利用の方は、周辺の市営駐車場等（有料）をご利用下さい。

（駐車場の利用料金、利用時間等は、ホームページ等でご確認をお願いいたします。）

② 情報交換会・分科会

「ホテルレイクビュー水戸」（ＪＲ水戸駅南口より徒歩3分）

〒310-0015 水戸市宮町1-6-1 TEL 029-224-2727

7 参加者（800名予定）

① 関東地区知的障害福祉関係職員等

② 関係機関・団体、教育等の知的障害福祉関係者

8 日 程

1日目 7月3日（木）

〈全体会〉 会場：水戸市民会館 グロービスホール（大ホール）

12:00 受付

13:00 開会式

主催者挨拶 関東地区知的障害者福祉協会会長

山下 望

（一社）茨城県心身障害者福祉協会会長

檜山 太一

来賓祝辞 茨城県知事（予定）

水戸市長（予定）

各都県市代表者紹介

次期開催県代表者挨拶 （NPO）栃木県障害施設・事業協会会長 菊地 月香^{らぎ} 氏

13:30 基調講演

テーマ 「障害者福祉の未来とそのための準備」

講師 ウェルフェア・J・ユナイテッド株式会社

代表取締役社長 本間 秀司 氏

14:45 特別続編講演

テーマ 「障害のある人の表現活動と生涯学習～いまここで起きている」

講師 特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

代表理事 柴崎 由美子 氏

事例紹介・トークセッション

武田 愛氏（（宮城県）就労支援事業所レストランぴあ）、小堀 幸子氏（（茨城県）NPO 法人ちいきの学校）、ミヤタ ユキ氏（（茨城県）ROKUROKURIN 合同会社）からの事例紹介、柴崎氏を交えてのトークセッション

16:30 閉会

〈展示販売等〉 会場：水戸市民会館 やぐら広場（1階 大ホール入口付近）

11:00～16:45 自主製品等の展示販売ほか

〈情報交換会〉 会場：ホテルレイクビュー水戸 2階 飛天(ABC) （400名予定）

18:30 開会、主催者挨拶、来賓紹介

茨城を代表するあの人からのメッセージ、茨城といえば〇〇～〇君登場

20:15 閉会

2日目 7月4日（金）

〈分科会〉 会場：①水戸市民会館 ②ホテルレイクビュー水戸

8:30 受付（会場ごと）

9:00 開会

12:00 閉会、解散

（各分科会の開催概要は別添1のとおりです。）

区 分		会 場	定 員
第1分科会	障害者の表現活動	① 水戸市民会館 4階 中ホール	（約300名）
第2分科会	児童発達支援関係	② ホテルレイクビュー水戸 2階 常磐	64名
第3分科会	障害者支援施設関係	① 水戸市民会館 3階 大会議室	180名
第4分科会	日中活動支援関係	① 水戸市民会館 4階 小ホール	90名
第5分科会	生産活動・就労支援関係	② ホテルレイクビュー水戸 2階 飛天	96名
第6分科会	地域支援関係	② ホテルレイクビュー水戸 2階 鳳凰	88名
第7分科会	相談支援関係	② ホテルレイクビュー水戸 2階 紫峰	96名

9 参加費

① 大会参加費 12,000円

② 情報交換会参加費 10,000円

10 大会参加・情報交換会参加・宿泊の申込み（申込み手続きは、別添2のとおりです。）

【基調講演】

○テーマ

「障害者福祉の未来とそのための準備」

○講 師

ウェルフェア・J・ユナイテッド株式会社 代表取締役社長 本間 秀司 氏

〈講師プロフィール〉

外資系コンサルティング会社の日本のエグゼクティブシニアセールスマネージャーを15年。大手税理士法人マーケティング部統括部長を4年。社会福祉法人、医療法人、民間介護事業者に対する、経営企画室（本部機能）立ち上げ支援、経営者育成支援、事業計画策定支援、収支改善、人事考課制度・キャリアパス構築支援、階層別職員研修、新規事業開発支援のコンサルティング業務を通して、医療・介護の2025年モデル対応から個別事業の収支改善や人材育成、事業者間の統合・合併まで支援を実施中。

○概 要

厚生労働白書令和6年度版によると、障害者数は、身体障害児・者423.0万人、知的障害児・者126.8万人、精神障害者614.8万人、合計1,164.6万人です。そして、在宅者・外来者数は、95.8%の1,116.0万人です。

そのご家族は、年々、歳（とし）を重ねて、在宅者・外来者を支えることが難しくなっています。そして、今まで在宅で障害者を支えてきた団塊の世代のご家族はやがて人生をご卒業されていくことになります。

この研究大会にご参加の皆様が、世の中から必要とされ、ご活躍するのは、これからが本番です。しかしながら、国の財政は、少子高齢化への対応、国債の償還、医療、防衛と苦しくなるばかりです。また、一部の事業者の不適切な経営などで障害福祉サービス事業業界に逆風が続いています。

このような時代背景の中、障害福祉サービス事業を行う皆様は、「福祉の心を真ん中に置き、右手に技術、左手にそろばん」を理解し、経営することが求められます。今回、「障害者福祉の未来とそのための準備」と題し、これからの経営を考えたいと思います。

【特別続編講演・事例紹介・トークセッション】

○テーマ

「障害のある人と表現活動～いまここで起きている」

○講師

特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 代表理事 柴崎 由美子 氏

〈講師プロフィール〉

宮城県仙台市生まれ。(社福) わたぼうしの会・(一財) たんぼぼの家(奈良市)を経て、2012年から現職。主な仕事にコミュニティ・アートセンター設立、障害のある人のアートを仕事につなげる社会的企業設立、行政とNPOの協働実践(オープンアトリエ、障害者の生涯学習事業等)。さまざまな立場の人やグループ・団体が出会い、交流する機会をつくり、社会変革につながる共感や行動変容を生み出すことが好き。東日本大震災後、故郷・東北の障害のある人たちに向き合いたいと考え、2018年から仙台に住み、おもに東北・関東地域の事業に関わる。

〈団体紹介〉

エイブル・アート・ジャパンは、アートを通じてすべての人が幸せにいきることのできる社会の実現をめざして、1994年に誕生しました。障害のある人の芸術文化活動にかかわる相談支援事業、人材育成・啓発事業、創作・発表活動の環境形成、著作権マネジメント事業、鑑賞支援事業、生涯学習事業などを行っています。

○概要

種別代表者会議で行われた「障害者の表現活動」に関する講演は、多くの方々から大きな反響がありました。その声にお応えして今回、特別続編講演として、柴崎氏から「障害のある人の芸術活動の意義」について講演をいただくとともに、宮城県および仙台市で展開している実際の活動を、参加者である武田愛氏とともに発表します。その後、茨城県内でともに「障害者芸術活動支援」の環境形成を行ってきた小堀幸子氏とミヤタユキ氏と、その意義を深めていきます。福祉の現場で注目されている「意思決定支援」と表現活動の関係、また「障害のある人の生涯学習」がまちづくりの基盤になる?! 現在進行形についてお話しします。

〈事例紹介者〉

武田 愛 氏 ((宮城県) 就労支援事業所 レストランぴあ)

小堀 幸子 氏 ((茨城県) NPO 法人ちいきの学校 デザイン室室長)

ミヤタ ユキ 氏 ((茨城県) ROKUROKURIN 合同会社 代表)

分科会概要

第 1 分科会（障害者の表現活動）	
【テーマ】 「表現は言葉を超える～あなたらしさの放出と新しい価値の創造～」 支援の現場では、「この支援は正しい」や「利用者は本当に楽しいはずだ」と支援者の考えの型にはめた支援をしがちですが、それが最善とは限りません。笑顔で過ごすためには、一人ひとりの「ねがい」や「想い」に気づき、寄り添うことが重要です。本分科会では、長年にわたり「アート・表現活動」を通じて本人らしさを発信してきた社会福祉法人みぬま福祉会の取り組みを通し、言葉を超えた新たなコミュニケーションと価値の創造について学びます。 また、シンポジウムでは、「意思決定支援」の課題を提示し、助言をいただきながら、意思形成・持続支援の在り方を探ります。	
【講演①】 テーマ 「違うことの大切さ～福祉が生み出す多様な価値～」 講 師 （埼玉県）社会福祉法人みぬま福祉会 総合施設長 松本 哲 氏	
【講演②】 テーマ 「表現がつくる仕事と未来～みぬま福祉会の実践から学ぶ～」 講 師 （埼玉県）社会福祉法人みぬま福祉会 川口太陽の家 副施設長 工房集 管理者 宮本 恵美 氏	
【シンポジウム】 シンポジスト （埼玉県）社会福祉法人みぬま福祉会 総合施設長 松本 哲 氏 （埼玉県）社会福祉法人みぬま福祉会 工房集 管理者 宮本 恵美 氏 （茨城県）社会福祉法人茨城補成会 あつまれガッツ村 チームリーダー 大隅 彩香 氏 （茨城県）社会福祉法人神栖啓愛園 事務員・生活支援員 和田茉奈美 氏 （茨城県）社会福祉法人茨城県社会福祉事業団 茨城県立あすなろの郷 地域生活支援センター 生活支援員 大木 拓哉 氏	

第 2 分科会（児童発達支援関係）
【テーマ】 支援する機関も桜梅桃李 ～こどもに関わる様々な機関における支援・ケアの実際～ 障害児（入所・通所）事業所において、多様な取組みがなされ、支援者も時に悩みにぶつかることもあると思います。「他の施設ではどのような取組みがされているの？」「施設名は聞いたことあるけど、実際どうしているの？」など、疑問は尽きないのではないのでしょうか？連携するためには、その機関や施設の機能をより深めることにより、物事が迅速に進む可能性もあります。今回は、障害児入所施設・通所事業所の職員が普段あまり関わることの少ない様々な機関の実際の支援・ケアについてお話を伺い、明日の支援のヒントを持ち帰ることができればと思います。

【講演】

テーマ 「こどもはみんな桜梅桃李～こどもの医療におけるケアの実際～」

講 師 公益社団法人茨城県看護協会 茨城県母子保健センター 医師 山中 恵子 氏

【事例発表・パネルディスカッション】

テーマ 「支援する機関も桜梅桃李～こどもに関わる様々な機関における支援・ケアの実際～」

事例発表・パネラー

① こどもの心理における支援の実際

(茨城県) 社会福祉法人同仁会 児童心理治療施設 内原深敬 寮

主任セラピスト 中嶋 健治 氏

② こどもの自立における支援の実際

(茨城県) 社会福祉法人慶育会 児童養護施設 茨城育成園 副施設長 松崎 浩一 氏

③ こどもの医療における支援の実際

(茨城県) 茨城県立こころの医療センター 医療福祉相談室長 和智 萌 氏

助言者 (茨城県) 茨城県母子保健センター 医師 山中 恵子 氏

コーディネーター (茨城県) いばらきまち児童発達支援センター ひぬまきつず

管理者 郡司 茂則 氏

第3分科会（障害者支援施設関係）

【テーマ】

今、入所施設で直面する課題や必要な支援とは？ ～重度高齢化等に対応するための支援～

現在、入所施設に関して国連からの勧告も含めて国内でも議論がなされています。入所施設からの地域移行ももちろん大切な課題ですが、今現在、重度高齢化するなど施設入所の中で生活する利用者に寄り添って支援することも同じくらい大切なことではないでしょうか？ 現在入所施設で直面する課題や新たな支援方法について、茨城県内の取り組み事例を発表します。

【講演】

テーマ 「高齢知的・発達障害者のアセスメントに必要な基礎知識」

～しあわせいっぱいの高齢期にするために～

講 師 独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

総務企画局研究・人材養成部研究課 研究課長補佐 村岡 美幸 氏

【事例報告】

報告者 ① 「入所者の高齢化と環境に配慮が必要な方の支援～理想と現実～」

(茨城県) 社会福祉法人尚恵学園 障害者支援施設 尚恵厚生園・尚恵成人寮

尚恵厚生園 副施設長 塙 修一 氏

尚恵成人寮 主任支援員 山口 隆宏 氏

② 「センター方式を活用したケアプラン構築について」

(茨城県) 社会福祉法人茨城県社会福祉事業団 茨城県立あすなろの郷

支援部あざみ寮 主任 早川 邦男 氏

③ 「タッチケアを通した寄り添う支援について～良好な人間関係を築くために～」

(茨城県) 社会福祉法人征峯会 障害者支援施設 ピアしらとり

施設長 石井 浩之 氏

(茨城県) 社会福祉法人清香会 育心園

生活支援員 木村 礼子 氏

【ディスカッション】

コーディネーター (村岡 美幸 氏) の進行により、事例報告を踏まえた入所施設の課題について意見交換を行う。

第4分科会 (日中活動支援関係)

【テーマ】

社会参加と意思決定支援 「意思形成支援と意思表出支援 心を紡ぐ・つなぐ支援とは」

福祉現場では利用者さんの権利擁護、サービスの質の向上、地域支援の強化などが求められています。

更に虐待防止対策や感染症対策など、義務化されたことも多くやらなければならないことであふれている気がします。それ自体は決して悪いことではないですが、繁忙な業務の中で福祉の仕事の本質を見失ってはいないでしょうか？ そこで第4分科会では意思決定支援をテーマに日中活動支援の本質を見つめ直し利用者さんと心を紡ぐ支援について事例発表を基に考えていきたいと思います。

どんな利用者さんにも意思はあります。利用者さんの数だけ意思決定支援があります。

まさに「桜梅桃李」！！

利用者さん一人ひとりと心を紡ぐ、意思決定支援について考えてみましょう。

【事例発表】

発表者 ① テーマ「～Mさんとこれからも紡いでいきたいこと～」

(埼玉県) 社会福祉法人さくら草 デイセンターさくら草 支援員 室屋 実穂 氏

② テーマ「自信をもって伝えよう～自分らしい生活を目指して～」

(神奈川県) 社会福祉法人県央福祉会 パステルファーム ワーキングセンター

生活支援員 八木 千尋 氏

③ テーマ「私が決める！～梨花の生きる道～」

(茨城県) 社会福祉法人清香会 育心園 主任・サービス管理責任者 大内美和子 氏

【講演】

講師・コーディネーター

日本知的障害者福祉協会日中活動支援部会 部会長 森下 浩明 氏

((神奈川県) 社会福祉法人みなと舎 理事長)

第5分科会 (生産活動・就労支援関係)

【テーマ】

「ひとりひとりが輝くために」 ～就労選択支援と就労支援の質を考える～

働くことによって得られる人としての成長や社会性、人としてのプライドや尊厳は、すべての人が持つもの、或いは獲得すべきものと考えます。

ハンディのある人達が働く力、働き続ける力を発揮するためには、生活基盤等を含めた様々な側面からの長期に亘る支援が必要です。「働く」ことは暮らしを創り、人生を創ることと考えます。そのための適時・適切な支援のあり様と、その質について考えます。

【講演】

テーマ 就労選択支援について

講師 日本知的障害者福祉協会 生産活動・就労支援部会 東北地区代表 今村 健 氏
(（青森県）社会福祉法人義栄会 月見野作業所 管理者)

【事例発表】

テーマ 就労支援の質を考える

- ① 就労継続支援B型事業所（農福連携）による工賃向上の事例

(群馬県) 社会福祉法人ゆずりは会 障害福祉サービス事業所 菜の花

施設長 小淵 久徳 氏

- ② 物価高に対する対応事例

(茨城県) 社会福祉法人ユーアイ村 ユーアイキッチン 施設長 横須賀祥太郎 氏

- ③ 就労移行支援・定着支援に関する事例

(神奈川県) 社会福祉法人すずらの会 ワークセンターやまと

施設長 和賀 行彦 氏

【意見交換会】

参加者をグループに分け、グループ内でテーマ等について意見交換を行う。

コーディネーター 日本知的障害者福祉協会生産活動・就労支援部会

副部会長（関東地区代表）

福岡 新司 氏

(（神奈川県）一般社団法人SOWET 理事長)

第6分科会（地域支援関係）

【テーマ】

その人らしい地域生活を送るために 〈法人の強みを生かしたグループホーム支援〉

共同生活援助事業への営利会社等の参入により、障害者の地域移行が急速に進んだ反面、営利を追及し過ぎるが故に、サービスの質の低下や法令違反が紙面を飾ってきました。令和6年度の報酬改定では、これらの是正を図る処置がなされ、結果として収入減となった事業所が少なくありません。

今後更なる入所施設や病院等からの地域移行が推し進められます。グループホームにおける重度障害者の受け入れや一人暮らし等に向けた支援が幅広く求められます。その人らしい地域生活を送ることができるようにする為には、今こそ、社会福祉法人の強みを生かした支援(地域と「連携する」、「交流する」、「助け合う」等の関係性)を発揮していく時と考えます。

第6分科会では、既に実践をしている事業所の発表をもとに、研修参加者のそれぞれの法人や事業所の強みとは何か、どう生かしていくかを考える機会にしたいと思います。

【シンポジウム】

コーディネーター 関東地区知的障害者福祉協会地域支援部会 部会長 伊藤 淳一 氏
(（栃木県）社会福祉法人同愛会 ヒカリテラス 施設長)

シンポジスト ① (埼玉県)社会福祉法人清心会 グループホームさやか

理事長 岡部 浩之 氏

テーマ 「法人の強みを生かしたグループホーム支援」

- ② (茨城県) 社会福祉法人陽山会 ステップハート 管理者 狩谷 秀長 氏
 テーマ 「グループホーム利用者の結婚に関わる支援について
 ～支援のあり方について考える～」

- ③ (神奈川県) 社会福祉法人浄泉会 やまばとグループホーム
 支援課長 菊地 孝允 氏
 テーマ 「本人が望む暮らしを共に考える
 ～グループホームにおける看取り支援～」

助言者 日本知的障害者福祉協会地域支援部会 部会長 石本 伸也 氏
 ((香川県) 社会福祉法人もえぎの会 もえぎの里 管理者)

第7分科会(相談支援関係)

【テーマ】

ま ち

アイデア

『地域づくりは ニーズへの発想💡から』

相談支援専門員はソーシャルワークの担い手として環境等へ働きかけ、ご本人の社会生活がより充実できるような役割が求められています。グループワークを通してありふれた資源を生かすアイデアを共有し、『桜梅桃李』～ご本人も支援者もそれぞれの花を咲かせる～きっかけにしたいと思います。

【実践報告】

事例発表(パネラー)

- ① 「ご本人のことばから本人と共に築く^{まち}地域の仲間づくり」
 (茨城県) 社会福祉法人尚恵学園 相談支援事業所コスモス 大岡 智美 氏
- ② 「ご本人・家族のことばから^{まち}地域のありふれた資源を生かす支援」
 (山梨県) 社会福祉法人あそびじゅく 相談支援事業所 組木 中村 洋人 氏
- ③ 「ありふれた資源を^{まち}地域ごと生かす生きがいづくりの支援」
 (千葉県) 社会福祉法人榎の実会 障害者相談支援センターひかり 高安 一弘 氏

【ディスカッション】

「事業所、法人、協議会としての「^{まち}地域づくり」の捉え方についてパネラーが感じていること、思っていること等について」

コーディネーター 関東地区知的障害者福祉協会相談支援部会 部会長 河原 雄一 氏
 ((神奈川県) 社会福祉法人星谷会 地域活動支援センター 結夢 施設長)

【グループワーク・情報交換】

- ① 実践報告やディスカッションを通して気付いたこと、自分の実践の振り返り、情報交換、登壇者へのグループでの質問作り
- ② グループ報告／質疑応答
- ③ 登壇者から「ひとことコメント」
- ④ 関東地区部会長(河原 雄一 氏)からコメント